

今昔

堀川のにぎわいととも発展した門前

の絵は、尾張名所図会に入る
が描かれている城下の西に位置する江戸時代の圓頓寺付近です。

圓頓寺は、日蓮宗の寺院で、1654年(承応3年)に廣井村納屋裏町に普敬院を寺号として創建されましたが、1655年に京都立本寺の末寺となり長久山圓頓寺と改められました。

1724年(享保9年)大火で焼失した後、現在の地に移転されました。当山には、尾張徳川家から寄進された鬼子母神像が祀られており、毎月18日には公開されています。

堀川に架かる五条橋から慶栄寺、円頓寺の正面を通過して西に延びる通りは、円頓寺筋と呼ばれ寺社、町屋が立並び門前町が形成されました。

円頓寺の門前に商店街が誕生したのは明治20年代以後で、笹島に鉄道駅の開設、近隣に日本陶器などの工場建設、瀬戸線の延伸(大曾根～堀川駅)など円頓寺筋の賑わいを促し、飲食、衣服、日用品を中心とする店舗のほか劇場や寄席も設けられました。さらに、商店街が発展し江川を越え西側にまで延長され、大正から戦前には、大須や広小路に次ぐ規模となり、堀川以西の最大の盛り場として賑わいました。

しかしながら、自動車の発達、市電の廃止や瀬戸線の栄町へのルート変更(お堀部分の廃止)などにより人や物の流れが大きく変わり、かつての賑わいを想像するのは難しくなっています。

円頓寺商店街では賑わいを取戻そうと城下町の雰囲気が残る四間道との連携、様々なイベントの開催や空き店舗の活用など取り組みが始まっており商店街の再生が期待されています。

関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

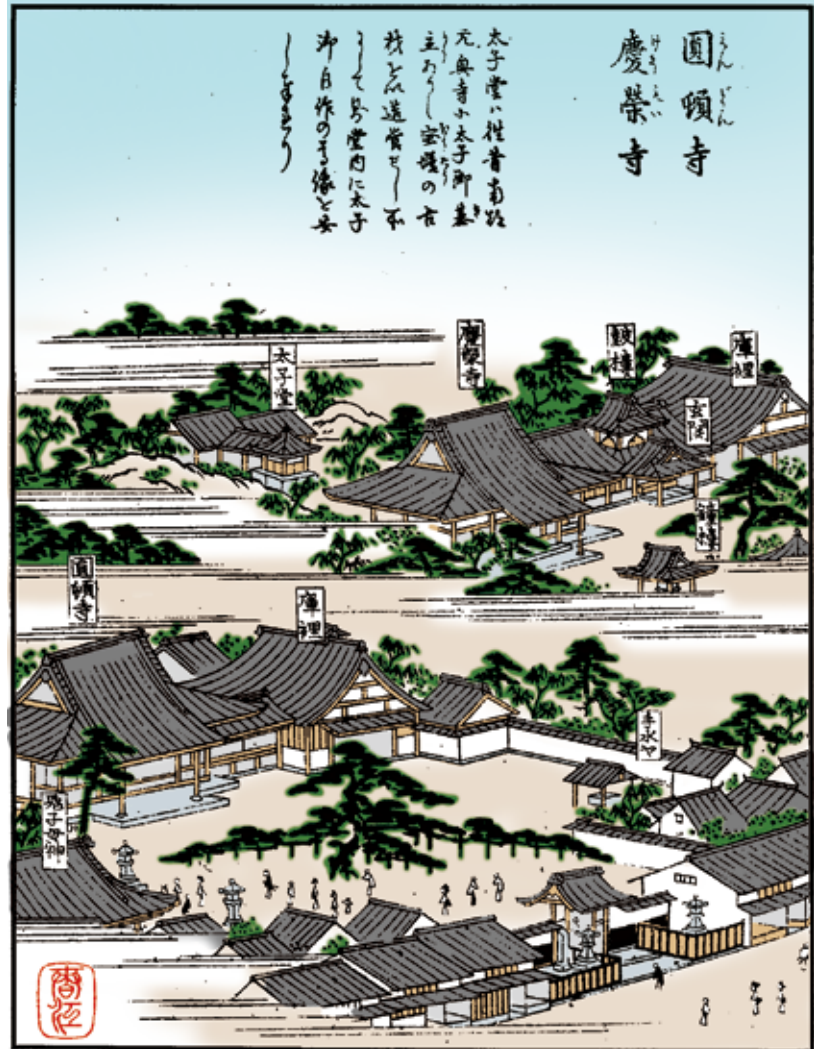
「尾張名所図会前編二」岡田啓/著 愛知県郷土資料刊行会(Sc-ア)

「西区の歴史」山田寂雀・西岡寿一/著 愛知県郷土資料刊行会(Sc-ア)

「西区70年のあゆみ」西区制70周年記念誌編纂委員会/編(2B21-78)

「わが町再発見! 閑所からのぞく四間道・円頓寺界隈」川原茂樹/著 (Se-カ)

名古屋市西区「ものづくり文化の道」ガイドブック「ものづくり文化の道」推進協議会/編(Se-モ)



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。



円頓寺



円頓寺商店街